

5月31日（日）ネットライブ礼拝

原稿 能城一郎

タイトル：旅はまだ遠い

【新改訳】 I列王 19:7 それから、主の使いがもう一度戻って来て、彼にさわり、「起きて、食べなさい。旅はまだ遠いのだから。」と言った。

この騒動の中、皆さんは、どのように心の平静をキープしておられますか。

外出しなくても、ステイ・ホームで同居人に迷惑にならない趣味をお持ちでしょうか。

私の趣味は、ネットで公開しているのですが、「読書と温泉」です。

読書は、自分の生涯を観想して、自分自身を見つめ直す力があります。

はた迷惑にもなりません。

しかし、「温泉」に出かける趣味は、遠出をしなければなりません。

不要不急の旅は、自粛しなければなりません。

自由に「旅」ができる日を待ち望みながら、

「旅の宿」、箱根、別府、草津、・・・という入浴剤で心身の回復を図っています。

さて、今日のタイトルは、「旅はまだ遠いのだから」です。

バアルの預言者との壮絶な戦いに、エリヤは勝ちました。

しかし、エリヤの命を奪おうとする刺客が送られました。

自分の命を守るために、安全と考えられる場所を探して、逃げて、逃げて、疲れ果ててしまいました。

ハリソンフォード主演の大型スクリーンの映画『逃亡者』を観られた方もおられると思います。主人公のお医者さんが、人殺しの冤罪を晴らすために、逃亡するお話です。

私は、1954年生まれで、1964年東京五輪の時、10歳でした。

その頃、白黒のブラウン管TVで『逃亡者』のドラマを最終回までワクワク、冷や冷やしながら見ていたのをはっきりと覚えています。

逃げて、逃げて、逃げ続けるのは、体力を消耗するだけでなく、その心労、心のストレスも通常とは桁違いにレベルが高いことを皆さんも想像がつくと思います。

聖書を見ると、エリヤは、心労から「自分の死を願って言った。」とあります。

疲労困憊、満身創痍の状態、神様に向って、「主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから。」と、精神的に危険なことばを口にしています。バアルの預言者450人、アシュラの預言者400人、合わせて、850人とたった一人で戦った勇者中の勇者が、燃えつき症候群に捕らえられ、非常にみじめな状態になってしまったのです。

この預言者エリヤの鬱状態物語は、「わたしは、大丈夫。平気。」という「過信」に対する警告のメッセージを含んでいます。警告のメッセージは、過信を予防するメッセージです。

エリヤもまさか自分が自暴自棄のことばを神様に吐き出してしまうとは思ってもみなかったことでしょう。

しかし、自暴自棄になった預言者を愛の神様は、眠りにつかせました。目覚めると、「彼の頭のところに」、トーストの香り、「焼け石で焼いたパン菓子一つと」、おそらく、自然のミネラルたっぷりの水がありました。エリヤの疲れは、まだ、完全に癒されていなかったのか。「彼はそれを食べ、そして飲んで、また横になった。」と、あります。

どのくらいの時間がたったのかは分かりません。エリヤが、自分で起きたのではなく、「主の使いがもう一度戻って来て、・・・」、寝ていたエリヤの身体に触って、「起きて、食べなさい。」だけでなく、「旅はまだ遠いのだから。」と、7節の「起きて、食べなさい。」に、「旅はまだ遠いのだから。」と、自暴自棄で一步を踏み出すことが出来ないエリヤに、やや前向きなメッセージを付け足しています。

「旅はまだ遠いのだから」という主の使いのことばには、1日、3日、1週間という明確な時間が示されてはいません。

結論は、「この食べ物に力を得て、四十日四十夜、歩いて神の山ホレブに着いた。」に至ります。

食べ、そして飲んで、  
また横になった。 (6節)

「起きて、食べなさい。  
旅はまだ遠いのだから。」 (7節)

起きて、  
食べ、そして飲み、  
この食べ物に力を得て・・・  
四十日四十夜、  
歩いて神の山ホレブに着いた。 (8節)

「四十日四十夜」は、聖書では、特別な時の長さを現します。この騒動の中で、「コロナ禍」、「わざわざい」ということばが頻繁に聞かれます。

ある人は、「禍・わざわい」と考えますが、

しかし、最初は、「禍・わざわい」と考えていた人が、

突如、わたしにとっては「コロナ禍」でなく、この出来事は、

わたしの人生の益となるのだと、晴やかな気持ちのを持つこともあります。

諺ならば、「災い転じて福となす」、

新約聖書ならば、ロマ 8 の 28、「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」でしょうか。

諺の励ましと、全知全能の神の励ましには、大きな違いがあります。それは、絶対に否定的な心に戻らないということです。「災い転じて福となす」を、悟ったとしても、次の「禍・わざわい」に遭遇すると元のように、「わざわいだ。」「わざわいだ。」と、心の落ち着きがなくなってしまうならば、それは、本当の悟りとは言えないのではないのでしょうか。「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」と、語ったパウロは、「いつも喜んでいない絶えず祈りなさい・・・」、また、「喜んでいない。もう一度言います」と、クリスチャンの信仰のどんな境遇にあっても、絶対に否定的にならない神への絶対的な信頼の境地を語っています。

この騒動の旅はまだ遠いのです。神への絶対的な信頼を保ち続けるには、何が必要でしょうか。それは、美しい励まし合いがある集まりです。先週のタイトル、「集いと励まし合い」を思い出してください。4/5~5/31 まで、AG 教団のガイドラインに従って、「集まり」を中止してきました。臨時役員会を ZOOM というオンラインで行い、6/4（木）の祈祷会から定例集会を再開することに決定いたしました。「旅はまだ遠いのです」、6月~9月頃までは、マスクをしながら熱中症にも気お付けながらの3密を避けての「自粛モード」の集まりとせねばなりません。集会の持ち方の詳細は、明日、6/1（月）、連絡係を通して、ネット、あるいは、文書 FAX でお知らせいたします。

神への絶対的な信頼を保ち続けるには、美しい励まし合いの集まりが必要です。「旅はまだ遠いのです」、元通りの集会が行われるまで、このライブ配信はこれからも続けます。6/4（木）午後7時半~8時半まで、6/7（日）午前10時半~午前11時半、皆様との再会を楽しみにしています。ネットで参加される方は、チャットに、「参加してます」と書き込みをくださっても結構です。また、連絡係に「ネットで参加しました」とお伝えください。

「旅はまだ遠いのです」、お祈りをします。